



【男女共生教育（ジェンダー平等教育） 11月8日】

大森誉（おおもりほまれ）さんに「性により誰一人排除されない社会をつくる力をつける」をテーマに講演していただきました。生徒たちは、講演から多くの気づきや感動を受け、個々の性の多様性に対する理解が深まりました。

講演者が学生時代や社会で経験した悩みについて語ったことで、生徒たちは自分と同じような状況に共感し、励ましや解決策を見出す手助けとなったようです。異なるバックグラウンドや経験を持つ人々とも共感し合えることが分かり、コミュニケーションの重要性を感じました。

講演を通じて「一人一人の持ち味を大切にしてほしい。みんな違っていい。」というメッセージを受け、他者との違いを受け入れることの大切さを実感しました。これが、偏見や差別を減少させ、共生のための環境を作り出す助けになることを理解しました。

講演を通じて、生徒たちは自分自身や他者に対する理解が深まり、多様なアイデンティティに対する偏見や先入観を乗り越えるための重要性を学びました。これが、より寛容で包括的な社会を築く基盤となることを感じました。

【職場体験学習（2年生） 11月1日・2日】

豊中病院・蛍池公民館・人権平和センター・蛍池・刀根山小学校・蛍池小学校・蛍池こども園・とねやまこども園・第十八中学校・グリーンリッチホテル・東横INN・木幸スポーツ企画・DECO Hair Salon・キャンドゥ・阪急オアシス・コープこうべ・みつか坊主・マクドナルド・カフェSUN・バーガー屋SUN・あほや

2年生は地元の様々な施設で職場体験を行い、非常に貴重な経験を積むことができました。これらの職場体験を通じて、自分の興味や強みを見つけ、将来の進路に対する自信をつけることができました。地元の様々な場所での経験から、地域とのつながりを感じ、将来の仕事においても地元で貢献できることを意識するようになったのではないのでしょうか。これからも地元との連携を大切に、子どもたちの成長と地域の発展に寄与していきたいと思えます。

【公開授業（大阪人権教育） 11月17日】

M先生とF先生が担当する2年2組体育の「キックベース」の授業を大阪府下の人権教育担当の先生方が見学されました。キャッチボールの練習や試合に一部の教職員が生徒の呼びかけで飛び入り参加するなど和やかに授業が進み、「チームプレイで試合を楽しむ」という狙いを達成しました。

参観された方には、「積極的に取り組もうとしている仲間の良さを認め活動している」ことを感じとっていただいたようです。また、生徒たちはこの授業を通じて、仲間との連携が自分の力を引き出す一因であることに気づき、他者とのコミュニケーションが自己決定力の向上につながることを実感したようです。

【第39回青少年健全育成市民のつどい 11月16日】

大阪大学大学院人間科学研究科の平井啓氏の講演では、ストレスが生活に及ぼす悪影響について具体的に示され、その中でもストレスマネジメントの重要性が強調されました。自らのストレスを理解し、効果的に対処することが健康にとって不可欠であることを学びました。自身の健康に対する意識を高め、ストレスの管理や心のケアの大切さを再認識しました。地域全体が協力し合い、健康な生活を支える環境づくりに寄与していくことが、参加者たちの共通の課題となりました。

また、第十八中学校区青少年健全育成会会長の斎藤さんが「地域ぐるみで楽しくホッとするまちづくり」をテーマに本校の様子について発表されました。あいさつ運動が子どもたちにとって社会性やコミュニケーションの大切さを学ぶ場となり、大人たちにとっては地域全体で温かい雰囲気醸し出す手段であることが示されました。また、納涼祭を通じて地域の人々が集まり、楽しいひとときを過ごすことで、地域コミュニティの結束が深まることが語られました。イベントを通して人と人のつながりを築くことが、地域への愛着と協力心を育む一助になることが理解されました。このテーマの発表を通じて、地域全体で楽しさとぬくもりを共有し、人々が助け合い、共に成長していくことの素晴らしさが伝わりました。